

5

鈴木大拙「即非の論理」の図解

(鈴木大拙: 1870~1966)

(即非の論理の悟り)

西田哲学

(西田幾多郎: 1870~1945)
禅を哲学的に論理化した。

図1

(Aは非Aであり、それ故にAである)

<非二元論的世界で成立>
(例: アメリカ人は...である。)

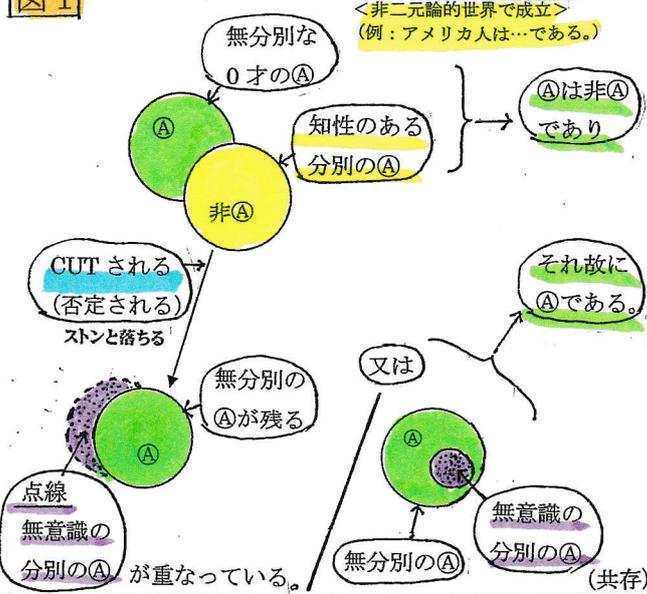


図2 悟りの図解②



純粋経験とは、
知性のカーテンがストンと落ちた感覚
(主観と客観が一体)
絶対無=空

<即非の論理>
...否定即肯定・肯定即否定
(非二元論的世界で成立)

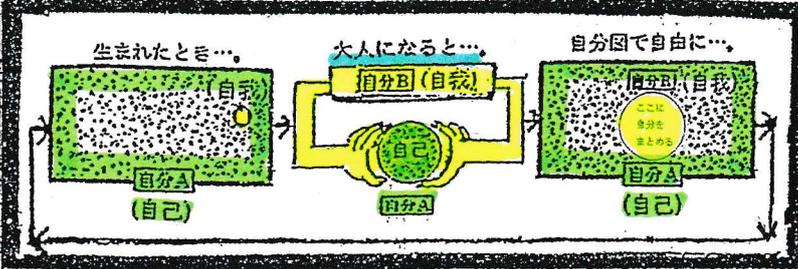
ぜったいむじゅんてき・じこどういつ
絶対矛盾的自己同一
(無意識の意識・無分別の分別)

場所的論理
<すべては絶対無の場所に置かれている>

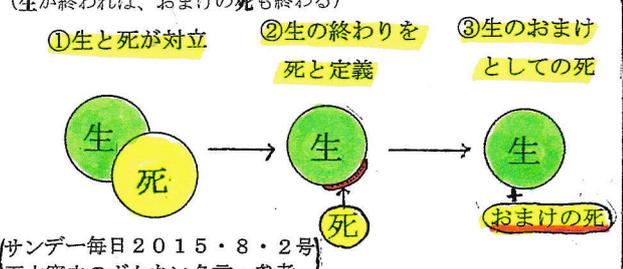
2017・7・7
即非の論理の図式化(図解)。

6

自分図(Jibunzu)・・・自己と自我の関係 (2009/4/8)



生が終われば、死も終わるのだ。(寺山修司)



7

ジブンズ <Jibunzu法>

<悟りの体験方法>

そこで先ず...

①気付きの悟り
なるほどそんなこともあるのかなあ...と思う。

次に

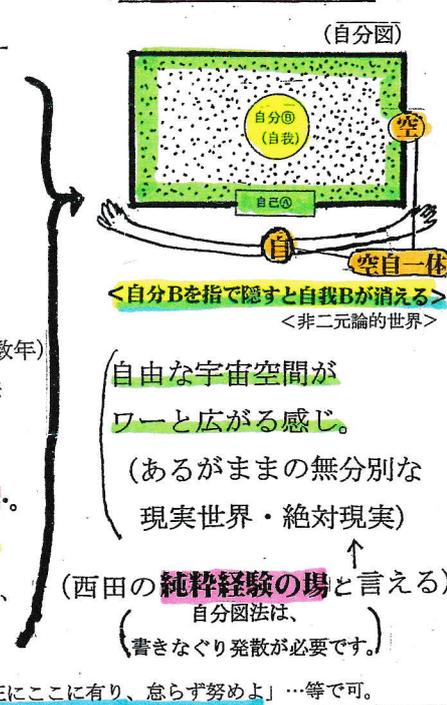
②実体験の悟り

- 1、禅の修行(数年~10数年)
- 2、Jibunzu(ジブンズ)法
- 3、Suton(ストン)法

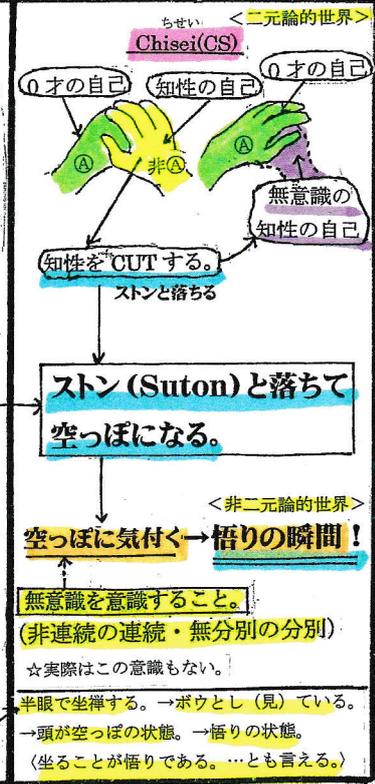
③生死の悟り(生死一如)...

生死の悟りは実体験の悟りでも完了する場合があるが、そうでない場合もある。

(死ぬ覚悟...死の受容)
→「瞬生五十年」・「生死は今正にここに有り、怠らず努めよ」...等可。



ストン <Suton法>



参考資料: 死生学研究会資料 ④空(くう)について、⑩原始仏教(釈迦の思想)と日本の大乘仏教、⑪自力と他力(空と悟り) ⑫哲学と宗教は、死をどのように捉えたか?

参考文献: 現代日本思想体系 8・鈴木大拙(筑摩書房・絶版)、哲学用語入門(高間直道著・大和書房)、すらすら読める正法眼蔵(ひろさちや著・講談社)、続・哲学用語図鑑(田中正人著・プレジデント社)、死に直面したあなたに(内田 誠著・死生学研究会)